

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム夏桜 1階 はる風		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日	令和4年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503510-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員は利用者を人生の大先輩として敬い、尊厳を遵守した接遇に努めている。 家族の来訪や面会時、お便り等で生活の様子や変化を詳細に伝え、意向や要望を生かした支援に努めている。 虐待、身体拘束、不適切行為等、対応マニュアルと接遇に関する遵守事項を唱和し、実践に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム夏桜」は、札幌市郊外の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットのグループホームである。開放感のある居間や食堂、談話コーナーもあり、利用者が好きな場所でゆっくり寛ぎながら桜や紅葉など四季折々の風景を室内の窓から楽しむことができる。壁には利用者や職員の作品、季節の装飾が施されており家庭的で温かな雰囲気が感じられる。感染症流行のため地域交流会の再開は難しい状況であるが、新しく就任した管理者を中心に全職員で戦略目標に掲げる地域密着型サービスの大切さを再確認し、町内清掃などの地域行事に参加している。毎年家族アンケートを実施したり面会時や電話で家族の率直な意見や要望に耳を傾け、職員間で情報共有しながら運営やケアに反映させている。アセスメントの面では、毎月全員の評価を行いながら現状に即した介護計画を作成し、利用者一人ひとりに応じた適切なケアを行っている。管理者は、計画的に内部研修を実施して職員の資質向上に努めるとともに、職員の意見や提案を日々聞き取り、仕事内容を再確認しながら業務改善に取り組み、働きやすい職場環境の整備に尽力している。母体が医療法人のため健康管理や医療対応も充実しており、利用者は職員の丁寧で温かなケアを受けながら笑顔で落ち着いた生活を送っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関、階段の踊り場に掲示し毎月のカンファレンスで唱和している。理念に基づき部署目標を全職員で作成している。また、毎月のカンファレンスで状況を評価している。	法人理念を基に作成した事業所独自の戦略目標項目に、地域との連携を図るという文言が含まれている。毎月戦略目標の振り返りを行い、職員間で共有しながら実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域福祉推進協議会に加入しているがコロナ禍のためすべての行事が中止となっている。(毎月のボランティアの来訪、年間行事、交流会)	感染症流行のため町内会行事への参加は難しいが、年2回の町内清掃に利用者数名と一緒に参加している。感染症収束後は、地域交流会を開催してコンサートや茶話会を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為地域貢献は町内清掃しかできなかった。運営会議の中で年間テーマを作り地域の構成員や利用者ご家族に認知症事例検討、身体拘束適正化委員会の取り組みを書面で送っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の為2か月に一度書面会議で行われている。地域包括職員、町内会長、民生委員、地域ボランティア、消防団員、ご家族に参加して頂きその中でサービスの実際、取り組みを報告し頂いた意見を質の向上に活かそうと考えている。	感染症流行のため2か月ごとに書面会議を開催し、職員の入退職や研修、事例検討資料を議事録に添付して家族と構成メンバーに送付している。今後は研修資料を添付したり避難訓練結果を報告し、家族や構成メンバーからの意見収集につなげたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚別区のグループホーム研修会はコロナ禍のため中止になっている。不明な点がある時は管理者が市や区の担当者に問い合わせる等協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者と計画作成担当者の交代により、市役所に変更届を提出している。管理者は、区役所からの情報で分からないことがあれば電話で確認したり保護課の担当者と利用者に関して情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化について、身体拘束適正化委員会による内部研修を年2回行っている。身体拘束をする場合はカンファレンス、身体拘束適正化委員会で話し合った結果をご家族にお話しして同意書をもっている。玄関等の施錠は入居者のリスクの面から運営推進会議、ご家族の同意を得たうえで行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した指針を整備し、職員の目につく場所にも掲示している。車いす使用時の安全な姿勢保持のため固定ベルトを使用している利用者もいるが、可能な限り拘束時間を減らせるように毎月全職員で話し合い、家族に説明して同意書を取り交わしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人虐待マニュアルを毎朝唱和している。オンライン研修に参加した。法人による出前研修をおこなった。内部研修でも虐待について取り上げている。各階に1名ずつ虐待防止委員を置き、身体拘束適正化委員会から内部研修を実施している。全スタッフが虐待について検討し、日々のケアの中で虐待につながらないように注意を払い防止に努めている。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間内部研修で権利擁護について学ぶ。各階にいる成年後見制度を利用している方の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてご意見を頂く機会を設けている。毎月発行の夏桜だよりにもご意見を頂けるよう呼びかけている。玄関に意見箱を設置している。年に一度ご家族アンケートを実施し運営に反映させている。	毎年家族アンケートを実施し、結果と意見に対する事業所の対応を説明している。家族の面会時や電話、介護計画の更新時に意見や要望を聞き取り、個人ノートに記入してユニット会議でも情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のかフェレンス、リーダー会議、年に1度の個別面談などで意見を聞き運営に反映させられるよう努めている。管理者は出来るだけ少ない時間でも職員と話す時間を作れるよう努めている。	管理者は、会議や日々仕事の中で職員と話をし意見や提案を聞き取ったり、仕事内容を見ながら業務改善に取り組んでいる。職員は研修や園芸、行事や個別便りなどの役割を担当しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、外部研修にオンラインで参加したり、実践者研修に2名参加している。働きながら資格の勉強に通った職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為職員が同業者との交流をすることは難しかった。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人が困っている事、要望等に耳を傾けているセンター方式を導入し本人の意向や思いを探り安心、安全な生活ができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族が困っている事、不安、要望などに耳を傾け不安を取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」必要としている支援を見極め対応できるよう努めている。また必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等の家事を日課として職員とともに行いながら暮らしを共にして支え合う関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には本人の様子等詳細をお便りで伝えている。また必要に応じてサービス担当者会議を開催してともに本人を支えていく関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為オンライン面会を行っている。ご友人、ご親戚の電話等を取り次いだりご本人が大切にされてきた馴染みの関係が途切れないよう努めている。	友人や知人と電話や手紙で交流を継続している利用者もおり、職員は電話の取り次ぎや手紙の投函などを支援している。感染症流行のため外出する機会はほとんどないが、職員と一緒に受診帰りにドライブしたり馴染みの場所を通ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し孤立しない様職員が間に入り利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援に努めている。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係を大切にしていきたいため移行先に出向いたりしていたが現在はコロナ禍の為行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでも快適な暮らしができるよう入居者の思いや意向を把握できるように日々の様子を観察したりお話を傾聴したりしてケアに反映できるよう努めている。	会話や表情、行動などから思いや意向を把握している。センター方式シート(B-3)を作成して変化に応じて追記し、毎年更新して職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし方をお聞きして確認している。入居前に利用していたサービス担当者から情報を頂いている。サービス担当者会議、ケアプラン更新時に家族から伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日をわかりやすく記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で3か月に一度モニタリングを行い、本人の生活、満足度、新たな課題の検討を行っている。理学療法士のアドバイスをケアプランに取り入れ、電話や来訪時、サービス担当者会議で家族の要望等を聞きカンファレンスで現状に即したケアプランを作成している。	計画作成担当者を中心に、毎月の評価と家族の意向を基に3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画1表の家族意向欄に変化が見られない計画もある。日々の記録は、介護計画に関する記録が少ないように見受けられる。	家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画1表に反映させるよう期待したい。また、介護計画を確認しながら日々の記録に変化や課題を記録し、介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などを個別記録に記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携しながら本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常であれば、地域の一員として安定で豊かな暮らしを楽しめるように町内会、地域ボランティア、民生委員、地域包括センター等の協力を得ているが、コロナ禍の為、出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を受けている。本人、ご家族の希望のかかりつけ医より適切な医療が受けられるように、支援している。受診の際には、職員も同席して家族やかかりつけ医との関係を築く努力をしている。他科受診が必要な場合は紹介を支援している。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医を家族と受診する時は口頭で様子を伝えたり状況に応じて手紙で主治医に知らせている。医療情報は「医療機関受診記録」に個別に記入している。	

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体協力病院から、訪問看護師が訪問して、健康管理をしている。何かあれば相談し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療ができるように情報提供を行い、円滑に進むように情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携体制に関する指針および重度化指針」を示して説明し同意を得ている。重度化した場合には終末期の在り方については家族の意向を大切に、かかりつけ医、訪問看護師とともに支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って医療行為が必要になった場合は事業所として対応が難しいことを説明している。利用者の体調変化に応じて家族、医師、事業所で方針を話し合っているが、入院になる利用者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は、普通救命講習を受けていたが、コロナ禍の為、実施できていない。年に数回火災、水害、土砂災害、地震の自主訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練を年に2回実施している。防災設備の点検シートを作成し、毎日確認している。	感染症流行のため、現在は年2回昼夜の火災や地震、水害を想定して自主訓練を行っている。地域との協力体制を再確認し、感染症収束後は消防署と地域住民の協力を得た避難訓練を予定している。	各種災害時におけるケア別の対応を話し合い、定期的に確認するよう期待したい。法人研修なども活用しながら職員の救命講習を計画的に進めるよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。法人や自施設でプライバシー保護について研修で学ぶ。	スピーチロックなどの接遇に関する研修を定期的に行っている。申し送りの際は、部屋番号を使用したりスタッフルームで行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服、誕生日の献立を選んで頂き、本人の思いや希望を引き出せるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に沿って体操やレク、入浴等の声掛けを行うが、参加は自由である。ひとり一人のペースを大切に、体調や希望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に清潔で季節に沿った服装選びができるように支援している。訪問美容を利用し、希望によりカット、パーマ、毛染め、髭剃りなどを利用している。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事が摂れるように、一人ひとりに合わせた食事形態にしている。また、食事中は黙食の為、音楽を流し楽しく食事が出来るよう努めている。コップに水を入れたり、テーブルを拭いたりなどのお手伝いもしてもらっている。	食材業者作成の献立を使用している。食材の下拵えなどで利用者も調理に参加している。献立を変更し、行事に合わせた季節の食事や、寿司などの出前を楽しむこともある。桜餅やおはぎなどのおやつ作りも行い、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食量、水分摂取量をチェック表「暮らしの様子シート」「記録シート」に記入し確認をしている。水分を取ろうとされない場合も、工夫した声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。夜間は、義歯を預かり消毒を行っている。口腔ケア、訪問歯科を利用し口腔状態を保つために状況を共有し指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	暮らしの様子シートをもとに、一人一人のパターンの様子を見ながら、声掛け誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。トイレへの移動が難しい方には夜間ポータブルトイレ使用してもらい自立を支援している。	日々の個人記録に排泄状況を記録している。自立している利用者も数名おり、全員がトイレでの排泄ができるよう支援している。時間帯ごとの声かけや、個々に合わせた誘導を行うことで失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因及び影響を理解し、朝食前に牛乳の提供を行っている。また、水分を摂って頂けるように、スポーツドリンク等を飲んで頂けるように工夫している。毎日の日課として、体操を行い、身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~3日おきに入浴をされており、拒否された時は、時間をずらしたりして気持ち良く入浴ができるよう工夫している。	毎日入浴が可能で、1人当たり週2~3回程の入浴支援を行い、利用者の状況に応じて入浴時間を決めている。同性介助にも対応しており、職員との会話や見守りでの入浴で、自分のペースで入浴できることが利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状況に合わせて居室で休むなどの支援を行っている。寝付けない時は、話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを整備し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。薬に変更があれば個人ノート、薬板に記載し情報を共有し状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を理解し、提供している。好きな事がある方には、気分や体調に合わせて支援している。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 はる風)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ベランダに出て外気浴を行っている。昨年に引き続きコロナ禍の為、例年なら4回あった外出行事は中止にしている。法人主催の行事にもコロナ禍の為参加出来ていない。	天候の良い日は玄関先のベンチや敷地内の駐車場に出向いたり、畑の作物の生育状況を見に行くことで外気に触れる機会を設けている。感染症収束後は、以前行っていた買い物や初詣、花見や紅葉見学の外出も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により、外出の機会がない為、行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や身内等から電話を取り次いだり、手紙が届いた時は、直接渡すよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間には、生活感や四季を感じて頂くよう取り組んでいる。不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度等)がないように配慮している。台所は対面式になっており、馴染みの生活音やにおい、調理の様子が見える等居心地よく過ごせるように工夫している。	広々としたリビングの他に、景色を眺めながらゆったりと過ごすことのできる、テーブルと椅子を設置した談話スペースを設けている。各廊下の先には窓があり、明るく開放感が感じられる。利用者の絵などの作品や利用者と一緒に制作した季節の装飾もあり、家庭的な温かみを感じられる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースの2か所にテーブルやソファやテレビを置いて、一人で自由に過ごせる様、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には使い慣れた家具や家族の写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスや鏡台、椅子などの使い慣れた家具や、編み物の道具など趣味に関する物を持ち込んでいる利用者もいる。壁面にはカレンダーや写真が飾られている他、ぬいぐるみなど好きな小物も飾られており、生活感があり居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や好みのものを貼って、自室が分かるように工夫したり、見守り可能な動線の中で出来る事を活かして自立した生活が送れるよう取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会		
事業所名	グループホーム夏桜 2階 そよ風		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目2-26		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日	令和4年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503510-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 職員は入居者を人生の大先輩として敬い、尊厳を遵守した支援に努めている 利用者本人のできる事、やりたいことに注目し本人本位のケアプラン作成に取り組んでいる 毎日歌を唄ったり、体操をしたりなどの活動を取り入れている 家族の来訪時、ケアプラン説明時に生活の様子や変化、体調を出来るだけ詳細に伝えるよう努めている 虐待、身体拘束、不適切行為等対応マニュアルと接遇に対する遵守事項を唱和し実践につなげている 地域の一員として地域行事に参加してきたが現在はコロナ禍のため実践されていない 地域のボランティアを導入し事業所行事や災害時の協力関係が築けている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し事業所理念として部署目標を作り毎月カンファレンスで輪番にて部署目標の評価をし法人理念は唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域福祉推進協議会に加入しているがコロナ禍のためすべての行事が中止となっている。(毎月のボランティアの来訪、年間行事、交流会)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為地域貢献は町内清掃しかできなかった。運営会議の中で年間テーマを作り地域の構成員や利用者ご家族に認知症事例検討、身体拘束適正化委員会の取り組みを画面で送っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の為2か月に一度書面会議で行われている。構成員や、ご家族からご意見があればサービス向上に活かしていこうと考えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚別区のグループホーム研修会はコロナ禍のため中止になっている。不明な点がある時は管理者が市や区の担当者に問い合わせたり、ご意見を伺っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化について、身体拘束適正化委員会による内部研修を年2回行っている。身体拘束をする場合はカンファレンス、身体拘束適正化委員会で話し合った結果をご家族にお話して同意書ももらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人虐待マニュアルを毎朝唱和している。オンライン研修に参加した。法人による出前研修をおこなった。内部研修でも虐待について取り上げている。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間内部研修で権利擁護について学ぶ。各階にいる成年後見制度を利用している方の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは運営推進会議の参加の声をかけをし、ご意見を反映したがコロナ禍の為、書面会議とサービス担当者会議又は年1回の家族アンケートでご意見や要望をお伺いし運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス、リーダー会議、個別面談などで意見を聞き運営に反映させられるよう努めている。管理者は少ない時間でも出来るだけ職員と話す時間を作れるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、外部研修にオンラインで参加したり、実践者研修に2名参加している。働きながら資格の勉強に通った職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為職員が同業者との交流をすることは難しかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人が困っている事、要望等に耳を傾けているセンター方式を導入し本人の意向や思いを探り安心、安全な生活ができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族が困っている事、不安、要望などに耳を傾け不安を取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」必要としている支援を見極め対応できるよう努めている。また必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等の家事を日課として職員とともに行いながら暮らしを共にして支え合う関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には本人の様子等詳細をお便りで伝えている。また必要に応じてサービス担当者会議を開催してともに本人を支えていく関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為オンライン面会を行っている。ご友人、ご親戚等の電話等を取りついたり、ご本人が大切にされてきた馴染みの関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し孤立しない様職員が間に入り利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援に努めている。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係を大切にしていいため移行先に出向いたりしていたが現在はコロナ禍の為行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでも快適な暮らしができるよう入居者の思いや意向を把握できるように日々の様子を観察したりお話を傾聴したりしてケアに反映できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし方をお聞きして確認している。入居前に利用していたサービス担当者から情報を頂いている。サービス担当者会議、ケアプラン更新時に家族から伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日をわかりやすく記録に残し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で3か月に一度モニタリングを行い、本人の生活、満足度、新たな課題の検討を行っている。電話や来訪時、サービス担当者会議で家族の要望等を聞きカンファレンスで現状に即したケアプランを作成している。理学療法士に訪問してもらいアドバイスをケアプランに生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などを個別記録に記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携しながら本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常であれば、地域の一員として安定で豊かな暮らしを楽しめるように町内会、地域ボランティア、民生委員、地域包括センター等の協力を得ているが、コロナ禍の為、出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を受け、本人、ご家族の希望するかかりつけ医より適切な医療が受けられるように支援している。受診の際には、職員も同席して家族やかかりつけ医との関係を築く努力をしている。他科受診が必要な時は紹介を支援している。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体協力病院から、訪問看護師が訪問して、健康管理をしている。何かあれば相談し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療ができるように情報提供を行い、円滑に進むように情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携体制に関する指針および重度化指針」を示して説明し同意を得ている。重度化した場合には終末期の在り方については家族の意向を大切に、かかりつけ医、訪問看護師と共に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は、普通救命講習を受けていたが、コロナ禍の為、実施できていない。年に数回火災、水害、土砂災害、地震の自主訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練を年に2回実施している。防災設備の点検シートを作成し、毎日確認している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の洋服、誕生日の献立を選んで頂き、本人の思いや希望を引き出せるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に沿って体操やレク、入浴等の声掛けを行うが、参加は自由である。ひとり一人のペースを大切に、体調や希望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と共に清潔で季節に沿った服装選びができるように支援している。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事が摂れるように、一人ひとりに合わせた食事形態の工夫をしている。また、食事中は黙食の為、音楽を流し楽しく食事が出来るよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量をチェック表「暮らしの様子シート」「記録シート」に記入し確認をしている。水分を取ろうとされない場合も、工夫した声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。夜間は、義歯を預かり消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	暮らしの様子シートをもとに、一人一人のパターンの様子を見ながら、声掛け誘導行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因及び影響を理解し、朝食前に牛乳の提供を行っている。また、水分を摂って頂けるように、スポーツドリンク等を飲んで頂けるように工夫している。毎日の日課として、体操を行い、身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~3日おきに入浴をされており、拒否された時は、時間をずらしたりしている。入浴の時間が楽しくなるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状況に合わせて声掛けを行っている。寝付けない時は、話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを整備し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を理解し、提供している。好きな事がある方には、気分や体調に合わせて支援している。		

グループホーム夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ベランダに出て外気浴を行っている。コロナ禍の為、毎年4回の外出行事は中止にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。全員がお小遣いを持っており、希望があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や身内等から電話を取り次いだり、手紙が届いた時は、直接渡すよう支援している。電話を掛けたいときはいつでも対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間には、生活感や四季を感じて頂くよう取り組んでいる。廊下には広報や行事の写真を貼っている。室温や湿度、換気に気を付け快適に過ごせるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースの2か所にテーブルやソファやテレビを置いて、一人で自由に過ごせる様、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真等を飾り、入居前と同じように本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や好みのものを貼って、自室が分かるように工夫している。建物内部はバリアフリーとなっており、廊下、トイレ、浴室には手すりがついている。日々の関わりの中でその方が出来る事を把握し役割を持って頂いている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム夏桜

作成日：令和 4年 11月 7日

市町村受理日：令和 4年 11月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の1表の家族意向欄に変化がみられていない計画があるので、ケアプラン説明時にはかならず、ご家族の意向を聞き、1表に反映する。日々の記録が介護計画に沿っていない物が多い。ケアプラン、支援内容を把握した記録を書くようにする。	家族の意向を毎回確認し、1表に反映する。介護計画を確認しながら記録ができるようにする。	介護計画をみながら記録をすることができるように工夫する。介護計画説明時には家族に意向をきき、1表に反映させる。	1年
2	35	各種災害時におけるケア別の対応、利用者別の避難方法の話し合いが不十分である。職員の救命講習が計画的に進められていない。	利用者別の避難方法、ケア別の避難方法を想定し、避難訓練に生かしていく。法人の救命研修等に参加する。	年に1度利用者別、ケア別の避難方法を話し合い、避難訓練に活かしていくようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。